(別紙２)　　審査の結果の要旨

氏名　　玄武岩

本論文は、朝鮮半島、日本、中国東北部、極東ロシアの沿海州・サハリンなどにまたがる朝鮮民族の移動と定住、アイデンティティの再編を、フィールドワークを交えた歴史・社会学的方法によって解明し、２０世紀の東アジアに展開されてきた「コリアン・ネットワーク」の諸相を包括的に明らかにしたものである。

本論文の特徴は、ネットワークの概念を方法論的な中心概念に据えつつ、その具体的な様態と変容を、植民地期、冷戦期、冷戦以後の三つの段階に即して明らかにしている点にある。本論文は、ふたつの部分から構成されている。

第一部では、「メディアのコリアン・ネットワーク」をテーマに、植民地期の観光視察や巡回講演、音楽巡演や映画上映会、各種イベントや新聞が取り上げられ、それらが帝国の空間を越境しつつ広がっていく様子が分散型のネットワーク形成として明らかにされている。さらに、冷戦期において、集権的な分断国家の成立にもかかわらず、そのような国民国家の境界を越えて様々な「コリアン系マイノリティ」のネットワークが形成されていった様子を、極東ロシアの沿海州やサハリンと朝鮮半島との間のネットワークや、中国東北部の朝鮮族と韓国との間のネットワークの具体的な諸相に即して明らかにされている。そして第一部の締めくくりでは、冷戦崩壊後、にわかに活況を呈するようになった「コリアン系マイノリティ」の様々な越境的なメディアのネットワークが、ラジオや衛星放送、インターネットなど介してどのように形成されていったのかが具体的な事例に沿って明らかにされている。

第二部では「越境と故郷の再生、アイデンティティの変容」をテーマに、越境的な移動と定住の諸相に光を当て、「コリアン系マイノリティ」がどのようにして新たな「故郷」を再生しつつ、ネットワーク的な結びつきを形成していったのか、その具体的な諸相を、中国東北部の朝鮮族や極東ロシアの沿海州の「高麗人」さらに済州島と繋がる「在日コリアン」などを取り上げながら、明らかにされている。とくに、この部分では、冷戦崩壊後、決定的に大きな存在として浮上することになった韓国とのネットワーク形成が、中国東北部、沿海州、サハリン、さらに日本などに越境し、定住する「コリアン系マイノリティ」のアイデンティティの変容と関連して具体的に明らかにされている。

このように本論文は、２０世紀の東アジアに形成されてきた「コリアン系マイノリティ」の様々な結びつきをネットワークの概念を通じて明らかにしようとした点できわめて独創的な研究である。ネットワークの概念をより精緻化していくことや、「コリアン系」と「非コリアン系」との関係をどう捉えるかなど、今後さらに取り組むべき課題が残されているが、先行研究の蓄積が乏しい研究分野を新たに開拓し、総合的かつ詳細に東アジアにおける「コリアン系マイノリティ」のネットワーク形成を明らかにした点で本審査委員会は、本論文が博士(社会情報学)の学位を授与するにふさわしい水準に達しているものと判断する。